

聖書箇所：Iコリント12：31～14：1

タイトル：聖霊の賜物と神の愛

テーマ：Iコリント13章が語ろうとしていることは何か。特に今年の年間聖句である「いつまでも残るものは信仰と希望と愛です。その中で一番すぐれているのは愛です。」とパウロが語っている本当の意味は何かを考えてみる。特にここでは、12章から14章までの文脈を無視して13章だけを取り上げるわけにはいかない。その全体をとらえて初めてパウロの真意が見えてくるのである。

アウトライン

1. はじめに

2. Iコリント12章（文脈の確認を含めて）

①1～3節

*イエス・キリストを信じる信仰は聖霊の賜物

②4～11節

*聖霊の賜物にはどのようなものがあるか

*聖霊の賜物が与えられている理由（7節 みなのため）

③12～30節

*教会の兄弟姉妹を人間の体の器官に譬えている

*からだのひとつであるように教会も一つのからだ

④31節

*翻訳から来る誤解

*賜物の優劣を語っているのではない

*パウロは最も素晴らしい道を伝えようとして13章につなげていく

3. Iコリント13章

①1～3節

*異言（コリント教会が非常に重視していた）、預言、あらゆる知識・奥義に通じる、信仰（山を動かすほどの）、慈善（惜しみなくささげる賜物、命までささげても惜しくない）

*どのような素晴らしい賜物もそれをささげていくに当たって「愛（神の愛）」がなければ何の意味もない

②4～8a節

*賜物を生かすのは神の愛（キリストの愛の具体的内容）

③8b～12節

*預言や異言の賜物さえもすたれる

④ 13 節

*いつまでもすたれないもの（信仰、希望、愛） 実はこれも聖霊の賜物である

4. I コリント 14 : 1 ~ 33 a

① 1 節

だから愛を追い求めなさい、霊的なものを求めなさい（御霊の賜物、特に預言することを求めなさい）

② 2 ~ 33 a 節

異言（自分の徳を高める） 預言（教会の徳を高める）

教会の秩序

5. 結論と適用

① 賜物と神の愛